Ⅰ　研究の経過と概要

東山梨地区　保護者・地域住民との提携部会

１．研究テーマ

「地域とともにある学校づくりをめざして」

子どもたちの抱えている問題やその背景にある社会・地域の課題を明確にしながら，子どもたちが一人の人間として社会的自立を果たしていくためには，学校・家庭・地域社会がそれぞれの責任を明確にするとともに，それぞれを補完し合いながら地域全体で子どもの成長を支えていくことが必要である。また，学校のあり方を見直し，「学校が地域社会へ参画する」や「地域が学校教育へ参画する」をめざし，「地域とともにある学校」づくりに取り組まなくてはならない。

近年，学校では，外部講師の依頼，保護者・地域住民などを対象に行う学校評価・授業評価，学校評議員制の流れを汲む組織の設置等，学校運営に関して外部の声を取り入れることが増えている。さらに，コミュニティ・スクールという学校と地域住民等が力を合わせて学校の運営に取り組むことが可能になる「地域とともにある学校」への転換を図るための有効な仕組みを導入し，学校運営に地域の声を積極的に生かし，地域と一体となって特色ある学校づくりを進めてきている。

教育基本法には「学校，家庭及び地域住民その他の関係者は，教育におけるそれぞれの役割と責任を自覚するとともに，相互の連携及び協力に努めるものとする。」との規定（第１３条）が置かれた。また，学校教育法では，「小学校は，当該小学校に関する保護者及び地域住民その他の関係者の理解を深めるとともに，これらの者との連携及び協力の推進に資するため，当該小学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を積極的に提供するものとする。」と定められた（第４３条)。さらに，学習指導要領の中にも，学校・家庭・地域住民相互の連携及び協力の必要性に関する記述が多い。これらのことは学校と地域・社会・保護者との連携の必要性が高まっているからと思われる。

学校は地域社会を離れては存在し得ないものであり，児童・生徒は家庭や地域社会で様々な経験を重ねて成長している。本研究会では、「地域とともにある学校づくりをめざして」を主テーマに、地域とともにある学校であることの意味を問いながら，地域・保護者との関わり方を学び，そのことが子どもの成長，学校の成長，地域の活性化に生かされるような取り組みについて検討していきたい。

【研究の方向性】

Ⅰ　学校と地域・保護者との関わり方・連携の方策について

Ⅱ　学校・子どもたちが地域の人々や保護者とのつながりを生み出す実践

Ⅲ　研究の成果の共有（情報の発信も視野に入れる）

２．研究内容・方法

①部員によるレポート報告をもとに討議し，研究を深める。 各自，各校の実践を通して，子どもたちの変容の様子，問題点，悩みなどを提案し，それについて討議する。

②保護者・地域との提携について，授業実践を通して，研究を深める。

③常任講師の先生方には，常時ご助言・ご指導をいただくとともに，保護者・地域との関わりや連携について情報提供していただく。

④夏季学習会では，講師を招聘しての学習会並びに郷土に関わる施設等の臨地研修を通して，研究を深める。

３．研究組織

部　長	関口加代子（塩山南小）
副部長	飯室美華（大和小）　武藤有希(日下部小)
世話人・常任講師	竹川和彦（日下部小）　本宮聡（大和小）

研究メンバー　野尻あや子（塩山南小）　清水新果（塩山北小）　那須美佳（井尻小）
茂手木ゆう子（期井尻小）　志村克人（菱山小）　日原英二（岩手小）
加々美教子（日下部小）　渡邉祥子（日下部小）　計１３人

４．年間計画

	月　日	会場	司会	記録	内　　容
1	5．8	塩山中			研究テーマ，研究内容・方法の決定
2	5．22	塩山南小	塩山北小	大和小	年間計画・授業者の決定　県教研の報告
3	6．12	塩山南小	井尻小	菱山小	発表:日下部小　竹川 和彦 校長先生　塩山南小
4	8．9	塩山南小	日下部小	岩手小	**夏季学習会**　①研修会あるいは臨地研修 ②授業案検討
5	8．28	井尻小	大和小	塩山南小	**統一授業研** 授業研究：井尻小　那須 美佳 先生
6	9．18	塩山中	菱山小	井尻小	**秋季教研**　発表：塩山北小　岩手小
7	11．27	塩山南小	岩手小	日下部小	発表：大和小
8	1．15	塩山南小	日下部小	塩山北小	授業案検討
9	2．　5	菱山小	塩山南小	井尻小	**統一授業研** 授業研究：菱山小　志村 克人 先生
10	2．12	塩山南小	塩山北小	大和小	**冬季教研**　今年度のまとめ

５．これまでの研究の歩み

【第１回　５月　８日】テーマの決定

【第２回　５月２２日】年間計画，授業者の決定 ，春季教研の報告

【第３回　６月１２日】実践発表

・学校と地域・保護者との関わり方・連携の方策について（日下部小　竹川 和彦校長先生）

・保護者地域住民と提携した児童会活動について（塩山南小）

【第４回　８月　９日】授業案検討　５学年　総合的な学習の時間

・「ころ柿活性化プロジェクト～地域の農業と伝統的な産業を通して」 井尻小　那須美佳先生

・学習会　「和歌刻書土器について」甲州市役所文化財課　入江 俊行 様

【第５回　８月２８日】統一授業研　５学年　総合的な学習の時間

・「ころ柿活性化プロジェクト～地域の農業と伝統的な産業を通して」 井尻小　那須美佳先生

【第６回　９月１８日】秋季教研　実践発表

・児童会活動「大先輩とのふれあい集会」について（塩山北小）

第５学年　総合的な学習の時間学習指導案

指導者　　那須　美佳

１　単元名　　「ころ柿活性化プロジェクト～地域の農業と伝統的な産業を通して」

２　単元目標

【知識および技能】

地域の伝統的な産業であるころ柿作りについて調べることを通して，地域の素晴らしさが分かり，それらが地域の人々の工夫や努力によって支えられていることを理解する。

【思考力，判断力，表現力等】

ころ柿作りについて問いを見いだし，その解決に向けて見通しを持って調べ，集めた情報を多角的な見方で整理・分析し，自分たちの考えをまとめ，表現する力を身につける。

【学びに向かう力，人間性等】

地域の産業についての探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに，よりよい郷土の創造に向けて社会に参画しようとする態度を養う。

３　児童の実態

本校は甲州市の市街地の北西に位置し，周辺は果樹栽培を中心とした自然豊かな農業地帯が広がっている。全校児童は１０４名の単学級であるため，友人関係が固定化している面もあるが，諸活動では学年を超えた交流が多く見られる。本校の児童の多くは課題に粘り強く取り組み，自主学習も習慣化している。しかし，話を聞く姿勢や聞き取る力，自分の考えを言葉や文章で表現する力はまだまだ十分とは言えない。本学年の児童は男子８名，女子９名，計１７名の学年である。学習意欲は高い児童が多いが，授業中の発言に積極的な児童が限定的であり，自分の意見を表現するのを苦手とする児童がいる。

ころ柿についてのアンケートより（R1.7.19 実施）

別紙参照

４　教材について

本単元では地域の特産であるころ柿をテーマとして取り上げる。井尻・松里地区では柿の栽培，加工が盛んであり，秋になるところ柿を軒先につるす風景があちらこちらで見られる。伝統的な食品であるころ柿は「松里の枯露柿」としてブランド化され，冬の贈答品として人気が高い。児童の多くは祖父母や親戚の家，自宅などでころ柿作りの手伝いをした経験がある。また，学校でも「ころ柿集会」を開き，JA の方々や保護者の協力を得て柿の皮むきや天日干しなどのころ柿作りと試食体験をしたり，ころ柿についての調べ学習を行ったりしている。このように，地域の産業を誇りに思い大切に継承しようとする姿が見られる。一方で，地域の人々にとってころ柿は身近な農産物ではあるが，ころ柿を好んで食べない児童も多く，作るのに手間がかかるなどのマイナスイメージを持っている児童もいる。

児童は社会科の学習を通して，食料生産が自然環境と深い関わりがあることや生産を高めるための工夫や努力について学習し，日本の農業の現状と課題について目を向けてきた。今回の学習

では社会科の学習や「ころ柿集会」などの特別活動で身につけた知識や技能などを相互に関連付け，自らの力で身近な農産物であるころ柿に対する問題を発見し，解決できるような学習を展開する。JA や地域の方々から話を聞いたり資料提供を受けたりすることで，井尻・松里地区でころ柿作りが盛んなわけや生産や市場価値を高めるための工夫や努力に着目させるとともに，ころ柿にはそれに携わる人々の思いや願いが込められていることに気づかせたい。ころ柿作りを支える人たちと主体的に関わって新たな発見をする中で，ころ柿作りを大切にしていきたいという気持ちが育まれると考える。さらに，ころ柿作りにおける現状や課題についても地域の人々から直接話を聞くことで，切実な課題として児童が捉えるであろうと考える。その上で，地域で盛んに行われているころ柿作りがこれからも長く続いていき，ころ柿をこれからもたくさんの人においしく食べてもらうためにどうしたらいいかを考え発信していく活動「ころ柿活性化プロジェクト」を設定する。地域の産業に向き合い，アイデアを出し合うことで地域への親愛がさらに育ち，地域への誇りが培われていくものと考える。

指導に当たっては，1 学期に学習した社会科「食料生産を支える人々」の単元を想起させる。そして，どのように考えるのかについての具体的な見通しを持ち，「比較する」「関連付ける」などの考えるための技法を活用する。また，単元後半では，友だちと協力して問題を解決していく方法をとる。探究的な学習に対し協同して課題に取り組むことで学習意欲を持続させ，個々の考えを深め発展させることが期待できる。学習のまとめとして取り組む各プロジェクトの提案は，今年度の「ころ柿集会」の会場に掲示し，地域や JA の方々に見てもらう機会をとる。自分たちの考えた「ころ柿活性化」へのアイデアを披露する場を設けることで，学習意欲を高めたいと考える。

ゲストティーチャーについて

ゲストティーチャーを探すにあたり，甲州市学校支援地域ボランティア事業本部・地域コーディネーターの小宮山先生にご協力いただいた。小宮山先生は２年前まで校長として本校に勤務し，地域に在住ということで，授業の内容に詳しいゲストティーチャーを紹介していただいた。

ゲストティーチャー

星野　様（JA フルーツ山梨本所）

手塚　様（JA フルーツ山梨松里支所）

廣瀬　様（JA フルーツ山梨松里果実支所）

いずれも果実のエキスパートとして，農家との方々のサポートや品質のよい農作物の流通に尽力している。JA の方々には井尻小学校で行う「ころ柿集会」にも多数来ていただき，皮むきなどの講習や制作過程での状態の確認など，きめ細やかにサポートをしていただいている。また，星野さんにおいては２年前，３年生の時に行った総合的な学習の時間でも，主にころ柿作りについて教えていただいているなど，本校の行事や学習でもお世話になっている。

また，松里地区で観光農園を営んでいる岩波農園の方にもインタビューを行い，ころ柿の生産者として，観光客を受け入れる立場としての思いを聞き，映像資料としても提示していく。

他教科との関わりについて

社会　「食料生産を支える人々」

国語　「明日をつくるわたしたち」考えを明確にして話し合い，提案する文章を書く。

５　単元の展開（全 17 時間，国語「明日を作るわたしたち」から 7 時間を含む）

オリエンテーション・ころ柿について学習しよう

第 1 時　　３年生時の総合的な学習の時間で学んだことのふり返りをする。
ころ柿についてのアンケート結果から，ころ柿について思っていることを共通確認する。

第 1 次　ころ柿のよさを知ろう

第 1 時　　ころ柿のよさ（素晴らしい，優れた）はどこか聞いてみよう。**（本時）**

第 2，3 時　ころ柿のよいところについて調べよう。

第 2 次　ころ柿づくりの課題について知ろう

第 1 時　　ころ柿作りの課題について予想し，調べる方法を考える。

第 2，3 時　ころ柿作りの課題について，資料等を使ったりインタビューしたりして調べる。
（地域の人や祖父母などころ柿生産者，JA の方々に聞く活動などを適宜取り入れる。）

第 3 次　「ころ柿活性化プロジェクト」を立ち上げ，自分たちの考えを資料にまとめよう

第 1 時　　地域活性化の事例について甲州市や他地域の取り組みについて調べる。
（岩波農園さんのインタビュー映像も活用する。）

第 2～4 時　ころ柿作りがこれから先も盛んに行われるためにはどうしたらよいか，考えられる活動を挙げて課題を明確にする。（国語…話し合い活動を２時間含む）

第 5～10 時　課題ごとにグループを作り，提案資料を掲示物としてまとめる。
（国語…提案書を書く活動 5 時間を含む）

特別活動　「ころ柿集会」において提案資料を掲示し，集会に参加した地域の人や JA の方々に見てもらう。

６　本時の学習活動

（１）日時　令和元年８月２８日（水）１４：００～１４：４５

（２）場所　井尻小学校５年教室

（３）目標　地域の伝統的な農産物であるころ柿について調べることを通して，加工することで生まれるよさが分かり，ころ柿作りが地域の人々の工夫や努力によって支えられていることを理解する。

（４）展開

学習過程	□学習活動　○発問 ・予想される児童の反応	◇教師の支援 ＊評価【方法】
導入 10 分	□前時までの学習を振り返る。 □加工前の柿と枯露柿を比較する。 ・味，見た目，値段，手間，栄養，日持ちなど	◇写真を提示し，様々な視点から違いを挙げさせる。 ◇板書シートを活用し，児童が書いた考えを分類させながら黒板に提示する。
展開 30 分	□本時の学習課題をつかむ。 ころ柿のよさを教えてもらおう。	◇GT を紹介する。

	○ゲストティーチャー（GT）にインタビューして，ころ柿のすごいところを知ろう。 □項目ごとに質問をして，話の内容をワークシートに書く。 ○他にも知りたいことがあれば質問しよう。 ・ころ柿の生産量，他地域の生産の様子，ころ柿の歴史　など ○ころ柿作りを支える JA の方々の思いを聞こう。	◇「味」「見た目」などの項目別に質問をさせ，予想を確かめさせる。 ◇GT の答えを聞いて，さらに聞きたいことがあれば追加質問をさせる。 ＊ころ柿の良さについて理解している。 【発表，ワークシート】 ◇項目以外でも聞きたいことがあれば質問させる。 ◇松里地区でころ柿を作る訳と，品質を守る努力について GT に話をしていただく。
振り返り ５分	□学習感想を書き，発表する。 □次時の予告を聞く。	◇今日の学習で分かったこと，思ったこと，新たな疑問など，観点を与える。 ＊ころ柿作りが地域の人々の工夫や努力によって支えられていることを理解している。 【発表・ワークシート】 ◇新たに疑問や調べきれなかったことについて調べていくことを予告する。

（５）評価基準

ころ柿に加工することで生まれる良さが分かり，ころ柿作りが地域の人々の工夫や努力によって支えられていることを理解している。（知識・技能）

７　結果

（１）　授業での児童の反応

・ゲストティーチャーが３年生の時にもお話をしていただいた方だったので，あまり緊張せず親和的な雰囲気の中授業が進められた。

・ころ柿の値段や糖度，水分量など，専門家ならではの具体的な数字を示してもらったことにインパクトがあったようだった。

・渋柿が甘くなるメカニズムや水分量と保存性の関係を科学的に説明してもらい，知的好奇心が満たされ納得している様子が見られた。

（２）　観察者からの評価

・導入部分で加工前の柿ところ柿を比較する場面では，どのように考えるか視点がはっきりしていて児童が考えるための手助けになった。

・導入部分においてペアで考えミニホワイトボードに書いて発表させることで，どの児童も発表への抵抗感を減らし，多様な考えを出すことにつながった。

・比較する場面では，写真の見た目だけではなく味やさわった感じなど，経験や知識を生かして答えていた。

・地域の特性を生かした題材で，ゲストティーチャーとして農協の方に来ていただいたことに意義があった。授業の鍵となる場面でゲストティーチャーに協力してもらうことで，学習意欲と学習効果が高まった。
・ゲストティーチャーに質問をするという対話になる仕組みを作ったことで，児童の自発的な思考の流れを作ることができた。
・今回は「ころ柿のよさ」に中心をおいた授業だったので，「他に知りたいこと」の質問は，学習を進めていく上で新たに出た疑問などとともに，後日話を聞く機会を持つとよいのではないか。
・指導者は，児童とゲストティーチャーの思いを知り，すり合わせる授業づくりをしていくことが求められている。
・教科領域との横断的な学習が計画され，児童が主体的に学習課題を探究していこうとする姿勢をサポートしている。ダイナミックにつなげていけるとよい。

８　全体を通しての考察

学校と地域との関わり方について

・授業者自身がころ柿について調べ，地域の特性や課題を知るために，農協関係者や地域住民，地域をよく知る学校関係者から話を聞く機会を持った。その中で，授業者の持っていた見通しや仮説とは異なる地域住民の思いに触れたり，数多くの発見があったりした。よりよい教育活動を行うために，授業者自身が地域を知り，つながりを深めることの重要性を改めて実感した。
・児童が住んでいる地域や産業の魅力について気づくには，きっかけが必要であると感じた。見慣れた風景や農産物にも，地域外に住む人には魅力的に見えるものが数多くある。身近にあるものが決して当たり前のものではなく地域の素晴らしいところであることに気づくことも，地域に愛着を持つことにつながるのではないかと思った。
・本単元では「ころ柿活性化プロジェクト」として，児童会主催の「ころ柿集会」において，学習の成果をゲストティーチャーの方々へ伝える機会を設ける予定である。小さなことではあるが，地域の方々へ返していく場面を見通しながら，学習計画を立てていきたいと考えている。
・児童がころ柿の生産者側が抱える課題を知ることや，地域の方々に教えてもらったりふれ合ったりすることが，地域の活性化や地域住民の喜びにつながっていくだろうと考える。学校と地域住民との間にWin-Winの関係が成り立っているという成果もあった。
・学校と地域との間に生まれたつながりを，今後どのようにして保っていくのかについて組織的に考えていく必要がある。

ゲストティーチャーの活用

・今回は「甲州市学校支援地域ボランティア事業本部」という組織を活用し，地域コーディネーターの先生に，授業のねらいを達成できるゲストティーチャーを紹介していただいた。他にも家庭科や音楽でも本組織にお願いし，ボランティアとしてその分野に詳しい方々に協力していただき，充実した学習活動を行っている。地域とのつながり，授業の充実，人材確保の観点からも，たいへんありがたいと感じている。
・ゲストティーチャーの手配という観点からは恵まれているが，やはり，授業者とゲストティーチャーとの打ち合わせはなくてはならない過程である。児童の現状や授業のねらい、ゲストティーチャーの方々には何をしていただきたいのかを明確にし，具体的に伝えていく必要がある。

【参考資料１】学習プリント

5年総合的な学習の時間：ころ柿活性化プロジェクト　　8月　28日（水）

名前（　　）

ころ柿のよさを教えてもらおう。

☆ゲストティーチャー　星野さん（JAフルーツ山梨本所）
手塚さん（JAフルーツ山梨松里支所）
廣瀬さん（JAフルーツ山梨松里果実支所）

味について	しぶいかきとあまいかきがある。しぶみを取る方法は、ます。しぶみを感じさせなくする方法は、ガスやアルコールを使う。本当はかきはあまいがしぶみの方が強い。じゃす
水分について	50%あんほがき70~80%ころがき (生)$\frac{3}{4}$水分(こ)$\frac{1}{4}$水分がぬける 水分があるとかきが病気になりやすい。あまく感じられない。 水分がないと、保存食になり、あまく感じる。
ねだんについて	生がきからころがきにするまで41日間ぐらいかかる(手がかかる)ので、ころがきの方が高い(生)20~30円(こ)400円市場に出した時。店にならぶ時は700円。1箱一万円の時がある。大きさによってもちがう750円の時もある。
こなについて	かわかした最後に、あたためて、水分を出させることで、それがかたまって白いこなになる。→とうか
について	

と渡 20

学習感想

ゲストティーチャーの話を聞いて，分かったこと，考えたこと，疑問に思ったこと，もっと知りたくなったこと，など

私は、ころ柿は、きらい。だけど、ころ柿がきらいだから、ころ柿のことを知ろうとしていなかった。けれど、話を聞いているうちに興味がわいてきた。種類と、白い粉は、予想通りだった。水分を多くふくんでいて、悪いことなんてないと思っていたけど甘みが感じなかったり、病気になりやすいと聞いてびっくりした。形など、本で調べてみたいと思った。

ころ柿についている白い粉がとう分だということを初めて知っておどろいた。わざと暑くして、かきにあせをかかせてかわいたものがとう分だなんてびっくりした。ころ柿を作る人がいなくなってきているということは大変だなとあらためて思った。

水分が多いとくさりやすいということをはじめて知った。わたしはころ柿がきらいだけど食べてみたくなった。柿は干すとなぜ赤っぽくなるのか気になったから、今度本などで調べてみたい。しぶい柿が甘くなった柿を食べてみたい。

この山梨県の特産品のために、JAの人たちがんばっているのを見て、守っていきたいなと思いました。

【参考資料２】ころ柿についてのアンケート（R1.7.19 実施　５年生 17 名）

１　ころ柿を作っていますか。（複数回答）

自分の家で作っている　　３名
親せきの家で作っている　　９名
作っていない　　６名

２　ころ柿が好きですか。

好き　１名　　どちらかというと好き　４名
（理由）甘い　うまい　においがいい　毎年食べているから　（時々おいしくないのもある）
どちらかというときらい　５名　　きらい　７名
（理由）味がよくない（まずい　苦い）　においがよくない（くさい）
食感・触感がよくない（ベトベト　ネバネバ　ぶにょぶにょ　ねちょねちょ）

３　ころ柿のよいところはどこだと思いますか。

甘い 4　おいしい　もちもちなところ　外はかたくて中はやわらかい 2　苦いものを甘くできるところ　保管期間が長い　機械など使わなくていい　ない　わからない 2

4　井尻・松里地区ではころ柿作りがさかんなのはなぜでしょう。

みんなが好きだから 2　おいしいから 2　最初にそこでころ柿を作ったから　日当たりがよいから　空気がきれい　ころ柿が作りやすい環境だから　おいしく作れる気候や地形だから 2　気候が向いている　天候がいいから　あたたかい日が多いから　土地が高いから　ころ柿の柿の木がいっぱいあるから　ちょうど適している　分からない

5　ころ柿作りの課題は何だと思いますか。

人口減少　作る人が減ってきている　若い人が手伝わなくなってきている　みんなにおいしく食べてもらうこと　おいしく作るようにする　甘く作る　きれいに作る　手間がかかる　皮むき 3　柿が少ない　気候（雨）3　晴れが少ない　台風の影響で柿が少なくなる

6　もし，自分がころ柿を作っている人だとしたら，どんなことに気をつけて作ったり売ったりしますか。

甘く作る　美味しさ 4　皮を残さずむく 2　きれいなものを作る 2　きれいに詰める　もみすぎない　品質をよくする　形を崩さない　おいしく作るよう丁寧に扱う　粉がふくように　どんな人にも食べやすいもの　安心安全 2　品質や鮮度　安く作る

7　ころ柿について知りたいこと

歴史 4　どこで生まれたか　どういうときに作られたのか　なぜ柿を干すのか　生産量の多い県に甲州市は入っているのか 2　他の場所でも作っているか 3　どうして粉がふくのか　しわしわはどうやったらなくせるのか　食べられなくなったころ柿はどうなるのか　名前の由来　種類 3